

# 震災・原発事故を伝える

2011.3.11 から 8 年 2 ヶ月の今

2011年 3 月 11 日 午後 2 時 46 分

未曾有の災害『東日本大震災』 地震・津波・原発事故で、  
すべてが失われた。

あの日から 8 年 2 ヶ月を経た被災地は、今も厳しい環境にある。

## 《その 1 地震と大津波》



2011.3.11 14:46

大地震 南相馬市震度 6 弱

15:35 大津波到達。

海岸沿いの集落壊滅 高台に避難した  
人たちは、間一髪で助かる。

厳しい寒さと、停電、水道の出ない夜を  
明かす。 大津波による死者 636 人。



15 時 36 分 小沢集落 大津波に飲み込まれる



自衛隊、消防隊、警察隊の行方不明者捜索



津波で亡くなった子供たちの屋敷跡

## 《その2 原発事故》

- 3.12 15:36 福島第一原子力発電所 1号機水素爆発  
直後からガソリンや生活物資の供給途絶える
- 3.14 11:01 福島第一 3号機原子炉建屋水素爆発  
続く余震と津波警報、加えて水素爆発事故による混乱
- 3.15 6:00 福島第一 2号機圧力抑制室付近衝撃音  
4号機建屋の損失  
福島第一から半径 20 kmの住民に屋内退避指示
- 3.16 5:45 福島第一 4号機北西付近より火災発生  
8:34 福島第一 3号機白煙が大噴出
- 3.18～20日 市はバスで集団避難を誘導  
爆発以後、住民は各自避難  
市は一台につき 燃料 10ℓ を支給  
街はゴーストタウン  
置き去りにされた犬、猫が路上を徘徊。

市民は12日から14日にかけて避難した。

電気、水道が止まり、寒さは半端ない。16日夜、市役所に水を求めに行った。

直ぐに避難するよう説得され、17日に出る最後のバスに乗車するよう指示された。

何処へ行くかは知らされない。我が家は拒否した。アウシュビッツを連想した。

我が家は3月19日、埼玉県戸田市に避難し、4月5日まで過ごした。戻って見た光景は地獄のようで、ことばを失った。お習字の子供たちと両親、友人の多くが亡くなっていた。

～原発事故のため 行方不明者捜索は打ち切られた～



### 《3》 南相馬市復旧・復興の状況

### 鹿島区・原町区・小高区

#### ★ 鹿島区真野川漁港 南相馬市唯一の漁港



鹿島区真野川漁港壊滅(2011.4.7)



漁船戻る 前方がれき仮置き場(2015.7.22)



試験操業(2018.7.21)

#### ★ 原町区北萱浜区 海岸沿いの集落壊滅 犠牲者 63 人



北萱浜地区集落全滅(2011.4.7)



同地区仮置き場(2013.6.22)



ロボットテストフィールド建設中



雫地区集落壊滅(2011.5.1)



雫海岸防潮堤工事(2014.8.23)



第 69 回全国植樹祭会場(2018.6.5)

#### ★ 小高区 塚原地区



塚原地区壊滅(2011.5.1)



防潮堤復旧工事(2014.9.2)



防潮堤ほぼ完成(2017.3.6)



環境省管轄 除染廃棄物輸送車両



行津(なめつ)地区除染仮置き場



津波はここまでやって来た

## 【被災のゆくえ】

2011.3.11「東日本大震災」から8年2ヶ月が経った。津波で壊滅した防潮堤・防潮林・河川・圃場・漁港等インフラ面の復興・復旧は進んでいる。しかし、原発事故で避難を余儀なくされた住民の4万人強が未だに自宅に戻れない。

「帰還困難区域」の解除が順次されるが、帰還率は10%内である。今なお各地域に点在する除染廃棄物仮置き場から、中間貯蔵施設への搬入完了は2021年予定。その後の最終処分場は、目途が立たず白紙状態である。

国策のイノベーション・コースト構想は、相双地方の産業回復として各市町村に分野毎に建設される。自然豊かな風土が最先端技術を生み出すエリアへと変貌していくことに、被災地住民は違和感を抱く。現在進行中の現場の数々、これからどのような地域社会になるのだろうか。

## 《4》 浪江町復旧・復興の状況 棚塩地区 請戸地区 浪江街中

### ★ 棚塩地区

南相馬市小高区浦尻地区から浪江町棚塩地区へ続く海岸林は、唯一津波から免れ、豊かな植生が残った。しかし浪江町棚塩地区海岸林は、イノベーション・コースト構想として、水素製造工場の建設が進んでいる。復興優先で浪江町の貴重な自然は消滅する。



津波から免れた唯一の海岸林



工業団地造成始まる(2017.9.3)



水素製造工場現場(2019.5.3)



ミズヒキ

キンミズヒキ

## ★ 請戸漁港



請戸地区津波で壊滅(2012.5.16)



請戸小学校形のみ残る(2016.3.7)



請戸小学校遺構に決定 (2019.5.3)



漁港 商業施設被害(2013.8.5)



復旧漁船 28 隻係留(2017.2.20)



水産業施設建設中(2019.5.3)  
(卸売市場・水産事務所等)

## ★ 浪江町 街中

浪江町は平成 29 年 3 月 31 日一部避難指示解除。震災前 21,000 人いた住民のうち、戻ったのは 900 人に過ぎない。役場機能の再開、周辺地域の再開発とハード面での復興が進んでいる。しかし、かつて賑やかだった駅前通りは、未だに当時のままである。(いずれも 2019. 5. 3 撮影)



浪江駅前広場 人がいない



環境省管轄 民家解体現場



街中は当時のまま



2017・4 環境省管轄除染作業完了



＜浪江町吉沢牧場＞

震災後、逃走や餓死、殺処分などの悲惨な中、当時から約 300 頭の被災牛が暮らす。餌は全国から届けられる。首都圏への送電線が牧場内に林立する。

## 《5》 帰還困難区域の状況 双葉町・大熊町・富岡町



国道 6 号線 大熊町



荒廃した双葉町



富岡町 解除・困難区域が道路で分けられる

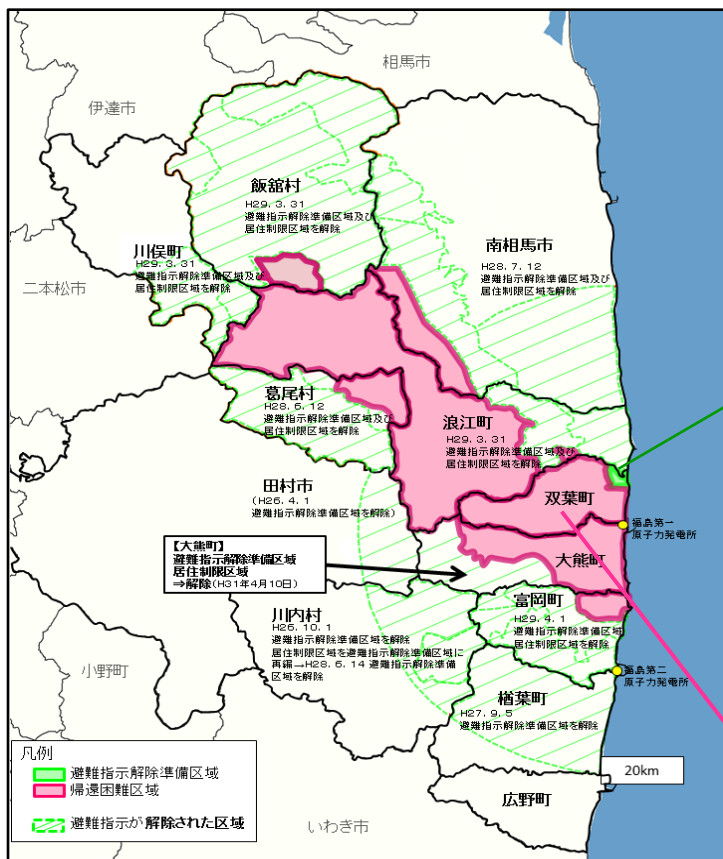


県道 35 号線この先双葉町立ち入り禁止 「帰還困難区域」に入る



双葉町を視察

## ★ 避難指示区域 平成 31 年 4 月 1 日時点 (参考資料)



双葉町両竹地区解除除染作業仮置き場



双葉町駅前通り側溝上 6.36 μSv/h

「帰還困難区域」の双葉町・大熊町は、「復興拠点地区」を設定。役場等の公共施設の建設、周辺地域復旧を目指す。

## 《6》 新しい出発を目指して 絶望から希望へ

★ 五月、田植えの時期を迎えた。整備圃場の田植えが始まった。老いても次世代へ繋ぐために力を結集する農家、酪農家、息子3人が担う建築業一家。そして若者の学び。



震災後初の田植えが始まった



住まいは暮らしの基本



酪農4代目になる息子が戻る日は近い

★ 南相馬市には、3つの高等学校がある。避難解除後小高区に開校した「県立小高産業技術高校」、約110年の歴史ある「県立相馬農業高校」、普通高校「県立原町高校」である。震災直後は、サテライト校での学校生活だった。ようやく、落ち着いてそれぞれの校風を生かした教育が行われている。まだ生徒数は震災前に戻らない。



小高駅 新規開設高に向かう生徒たち



相農生による伝統芸能披露



原ノ町駅 登校風景

### 「手に入れた物と失った物」

南相馬に残った人、別な土地に行った人、もう会うことの出来ない人、別の世界に行った人。僕はそういう人達のひとりです。(中略)

この震災で学んだ事となくした物、手に入れた物は多すぎて、子供の僕の手ではあふれ出るくらいです。大人の手でもあふれ出るかも知れません。それだけの事がこの震災で起きました。そしてこれからも失って、手に入れていくんだと思います。でも、これだけの事はもうないでしょう。

だからこれは人生を早めに勉強したんだと思います。

子供には早すぎる人生の。

南相馬市立原町第三中学校一年・現在大学3年生 福祉を学ぶ

『3/11 キッズフォトジャーナル』第一刷 2012 講談社  
岩手・宮城・福島の小中学生33人が撮影した「希望」より

避難先の福島市で、最後に吾妻中に通った日、前日は雨が降っていたのに、夜が明けたら校舎に大きな虹がかかりました。担任の先生から「この虹を渡って南相馬に帰って行くんだね」と言われ、うるっときました。



## 《7》 被災地に住むこと

震災関連死は3年前がピークだったが、昨年から増加してきた。特に南相馬市は累計513人で最も多い。8年間の避難先からようやく故郷に戻り、落ち着いた生活を取り戻した矢先の死である。避難先での疾病の悪化、生業を失い、生きる希望が潰えることは、死の大きな要因と言える。若い人達、若い家族は、避難先で家を立て、永住を決める。戻った人の多くは高齢者で、先祖の家、お墓を守るために戻る決意をした。

先日出会った女性（83才）は、吐き捨てるように「だれも墓参りにも来やしねえ〜」。元漁師60才男性は、妻を3年前に亡くした。足腰が悪くシニアカーである。兩人とも浦尻地区に戻った。戻った30人はいずれも高齢者だ。これが現実である。被災住民に寄り添う行政が必須である。と、同時に私たち自らコミュニティの構築に参画すべき時と思う。

新たなまちづくりは、先人達の叡智を今に生かすことから始めることと考える。



入居者あるも仮設住宅取り壊し進行中



仮設住宅は高齢者が占める



商業施設前の災害公営住宅

催しがあると住民はやって来る。再会と安否確認の場であり、笑いと涙の輪ができる。戻った人、避難先での生活を選択した人、どちらも故郷を想う気持ちに変わりはない。私たちのイベントは8回を重ねた。



サロンでのおしゃべり



アロマキャンドル作り



5月連休 どこにも人・人・人



地元の人達との話が弾む



2018・12「パネル展」

常盤自動車道南相馬市サービスエリア「セデッテかしま」 他施設にはない「ふるさと思考」が展開され、にぎわいを見せている。高速道路利用者と、地元の住民が利活用できる。コミュニティホールは、市民の催しが可能だ。地元住民の憩いの場で、なまりが飛び交う。

【最後に】ファイル作成で、8年分の取材当時間が甦った。仲間たちの後押しで続けられた。感謝！